鉄リサイクル業3社の25年3月期
2社増収増益、1社減収減益
鉄スクラップ事業、回復傾向
事業・対象期間の違いで〝明暗〟

上場する鉄リサイクル業3社の2025年3月での決算が15日までに発表された。2社が増収増益だったが、1社は減収減益と明暗が分かれた。非鉄金属の高騰が追い風となる中、鉄スクラップ市況が大幅に下落した昨年7～9月の影響や、事業部門の違いが収益に反映された。今期通期の業績予想は、TREホールディングスが減益を見込んだ。エンビプロ・ホールディングスとイボキンは従来予想を据え置いた。

鉄スクラップ国内市況は昨年7月中旬から2カ月半にわたって下落局面が続いた。下落前にトン5万円台だったメーカー買値（H2）は4万円前後に切り下がり、その後はおおむね安定した推移となった。対象期間に昨年7～9月を含むエンビプロHDの3Qは減収減益だったが、鉄スクラップなどを扱う資源循環事業は「2Q（24年10～12月）以降、業績が回復傾向」。グローバルトレーディング事業の金属原料に関しても「一時的なスクラップ価格下落の影響を脱し、3Q（25年1～3月）以降は堅調」とした。

TREHDの通期決算は増収かつ大幅増益。部門別では廃棄物処理・再資源化事業の大幅増益が寄与した。対象に昨年7～9月を含むため、鉄・非鉄スクラップを扱う資源リサイクル事業は小幅ながら減収だった。ただ、非鉄含有量の多い複合素材の扱い増や、各種選別ラインの活用による再資源化の徹底などで増益を確保した。

イボキンの1Q決算は増収増益。金属事業は鉄スクラップ価格が前年同期に比べ低い水準だったため減収となったが、大型解体案件から発生したスクラップの販売が寄与して増益を確保した。解体事業、環境事業はともに増収増益だった。

鉄リサイクル業3社　25年3月期通期・3Q・1Q業績【連結】

（単位：百万円、カッコ内は前年同期比増減%、▼は減または赤字）

	売上高	営業損益	経常損益	純損益	ROS（%）
2025年3月通期・実績（下段は26年3月通期予想）					
TREHD	118,678（27.8）	22,983（約3倍）	22,487（約2.9倍）	12,285（約3.4倍）	18.9
	119,300（0.5）	18,000（▼21.7）	17,300（▼23.1）	11,600（▼5.6）	14.5
2024年7月～25年3月（3Q）・実績（下段は25年6月通期予想）					
エンビプロHD	37,787（▼2.5）	857（▼17.5）	991（▼25.7）	1,021（4.6）	2.6
	49,500（▼5.2）	1,000（▼29.1）	1,150（▼35.5）	1,150（約2.1倍）	2.3
2025年1～3月（1Q）・実績（下段は25年12月通期予想）					
イボキン	2,467（1.0）	291（56.3）	295（54.0）	259（約2.1倍）	12.0
	10,500（8.7）	800（0.3）	826（0.4）	557（7.1）	7.9

24年度の特殊鋼受注
3.8%減の1370万トン
リーマンショック、コロナ禍下回る低水準

日本鉄鋼連盟が16日公表した特殊鋼鋼材受注統計によると、2024年度の受注量は前年度比3・8%減の1370万2198トンにとどまった。3年連続減で、リーマンショック後の09年度（1520万トン）、コロナ影響で落ち込んだ20年度（1416万トン）を下回る低水準。中国経済の低調や自動車業界の構造変化、世界市場における日系ユーザーの苦戦などベース需要に係る市場環境の厳しさを反映した。

国内向けは3・7%減の987万2743トン。1千万トン割れは09年度（990万トン）、20年度（999万トン）以来。輸出向けは4・2%減の382万9455トンだった。

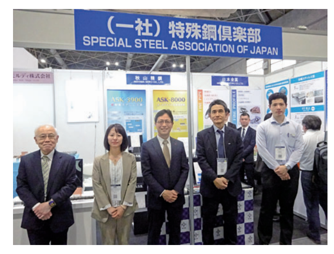
暦年ベースでは24年は1378万トンで、09年（1267万トン）、20年（1340万トン）を上回っていた。今年1～3月受注が振るわず、年度ベースでは両年度を下回った。

3月の受注は前年同月比4・9%減の112万3972トン。国内向けは3・1%減の78万7266トン、輸出は8・9%減の33万6706トンで、構造用合金鋼以外は全品種で減少した。

清水特殊鋼倶楽部会長
高機能金属を視察

特殊鋼倶楽部の清水哲也会長（大同特殊鋼社長）は、16日にインテックス大阪（大阪市住之江区）で開催されていた第12回高機能金属展を訪れ、特殊鋼倶楽部のブースを視察した。

特殊鋼倶楽部のブースでは会員企業の秋山精鋼、日本金属、南海モルディが共同出展。磨棒鋼メーカーの秋山精鋼は独自製品の高機能鋼「ASKシリーズ」を、日本金属はステンレス鋼帯や加工品を用いたさまざまな用途例を、南海モルディは自動肉盛り溶接装置「肉盛りくん」などをPRした。



共同出展ブースを訪れた清水会長（中央）

清水会長は3社の展示を視察し「出展したことで引き合いが来ているとうかがった。技術は持っているだけでなく活用することで生きる。会員企業とユーザーを結ぶ場を提供していけたらと思う」と語った。

JFEエンジニアリング
プロ野球で冠協賛試合

JFEエンジニアリング（社長・福田一美氏）が自社の認知度向上や従業員の福利厚生につなげようと協賛したプロ野球の公式戦「JFEエンジニアリングナイター」が15日夕、横浜市内の球場で開かれた。協賛企業の社名を掲げる冠試合として行われ、球場内の電光掲示板には同社の社名やJFEグループの動画が映し出された。

協賛したのは横浜DeNAベイスターズのホームゲーム。JFEエンジの社員や家族ら約300人が集い、試合前には選手の練習やスタジアム内を見て回る見学ツアーなどを楽しんだ。

始球式にはJFE東日本野球部の山田啓太さん（JFEエンジ所属）が登場。試合後は同社の福田社長が、ヒーロー賞に輝いた選手に記念品を手渡した。JFEホールディングス（HD）の北野嘉久社長らも試合を観戦した。

記念撮影するJFEHDの北野社長（下段中央左）、JFEエンジの福田社長（同右）ら

鉄リ工業会・北海道
定時総会に90人

日本鉄リサイクル工業会北海道支部（支部長・駒谷僚鈴木商会社長）は15日、札幌市内で第50回定時総会を開催した。総会後には懇親会が開かれ、会員ら約90人が参集した。

駒谷支部長は「全国大会とともに当支部も50回目と節目の総会。諸先輩の尽力があって現在も事業や活動ができている。改めて歴史の長さを実感するとともに、次の50年がさらに良い業界、良い団体となるよう努力したい。まずは来月の全国大会を成功裏に終えた後、当会の活動を通じていかに業界を活性化し、事業に役立てられるかをしっかり考えて行動していきたい」と挨拶した。

総会では24年度事業報告や決算、25年度事業計画や予算など全6議案が承認された。

総会後、来月5日に札幌市で開催される全国大会（北海道支部主管）について、実行委員会の東原正憲委員長（マテック執行役員）が「全国大会は約700人、ウェルカムナイトには144人と、われわれの目標を超える参加申し込みをいただけた。支部の皆さまの協力に心より感謝する。大会が大成功となるよう気を引き締めて当日にのぞみたい」と報告した。

駒谷支部長（上）、東原実行委員長が挨拶

炭素検出分析機
C カーボン
現場で手軽に！
フジトク株式会社
☎03-3909-1791

関東磨棒鋼工業協同組合が総会

関東磨棒鋼工業協同組合（理事長・山岡景一郎池内精工社長）は15日、都内で定時総会を開催した。昨年度の会計報告と今年度の予算案などを審議。役員改選では山岡理事長含め全役員が留任となった。

JFE鋼板
関西・四国・北陸新和会が総会

JFE鋼板（社長・黒田茂氏）は15日、香川県琴平町の琴参閣で「第20回関西・四国・北陸新和会」の総会を開催し、約50人が出席した。山田良彦JFE鋼板大阪支店長が開会の辞を述べ、続いて伊勢家勝正会長（伊勢屋商店社長）が「この4月から、JFEスチールとJFE鋼板、淀川製鋼所の3社が、戦略的アライアンスの検討を開始したというニュースが話題になっている。今のところ具体的な動きはないが、変化する世の中に対応する1つの可能性として、業界が良い方向に進むことに期待している」と挨拶した。

続いて黒田茂JFE鋼板社長が「北陸では非住宅関連の復興需要が確実で、関西は民間の非住宅物件は良くないが、万博関連では弊社の製品がさまざまな場所に使用された。今後のIRにも期待したい」と話した。JFEスチールの副島孝志大阪鋼板営業部長の挨拶の後、議事が進められ、商品説明会を実施。

総会後の懇親会では片山鉄建の片山隆之社長が乾杯の音頭を取り、JFE商事鉄鋼建材の吉川弘一執行役員西部事業部長が中締めをした。

伊勢家会長（上）、黒田JFE鋼板社長が挨拶

ファインスチール流通協議会が総会
副理事長に三宅氏（日鉄物産役員補佐）

建材用亜鉛めっき鋼板の流通業者で組織する全国ファインスチール流通協議会（理事長・佐渡島康平佐渡島社長）は15日夕、第15回通常総会を東京・茅場町の鉄鋼会館でウェブ形式と併用で開催した。会場には会員会社から30数人が参加。役員改選では佐渡島理事長が留任し、副理事長には新たに日鉄物産の三宅真一役員補佐（鉄鋼事業本部建材薄板部門分担）が就任した。このほか令和6年度の事業報告・決算、令和7年度の事業計画・予算などを承認した。

冒頭挨拶に立った佐渡島理事長＝写真＝は「マーケットは減少傾向にあるが、金属屋根のシェアはシンクタンク調べで2001年の31%から22年の63%へ引き上がっている。われわれが生き残るのはシェアアップしかない」と述べた。総会後の懇親会では三宅副理事長が乾杯の挨拶。中締めは新任の白田学常任理事（NSプロスチール建材社長）が一本で締めて盛況なうちに散会した。

石灰協会が総会

日本石灰協会（会長・上田和男上田石灰製造社長）は16日、東京都内で通常総会を開き、2025年度の事業計画案、予算案などを全会一致で承認した。

席上挨拶した上田会長＝写真＝は、「米国の関税政策による日本の産業界への影響が懸念されている。当然、われわれ石灰産業にも影響が出てくる。厳しい環境が予想されるが、協会としては当産業が持続可能な発展が遂げられるよう取り組んでいきたい」と語った。

日本石灰協会はこれまで、日本石灰工業組合と合同で定時総会を開催してきたが、昨年度末に同組合が解散したため、今回は石灰協会単独で総会を開いた。

韓・TCCスチール
25年1～3月期 純損失700万円

韓国のブリキメーカー、TCCスチールの25年1～3月期連結決算は、純損失が約7100万ウォン（約700万円、前年同期は14億3千万ウォンの純損失）だった。売上高は前年同期比18・0%増の1556億ウォン、営業利益が23・4%増の18億2千万ウォンだった。

決算談録
米国の関税影響、値上げで吸収

シャッター・ドア最大手の三和ホールディングスの25年3月期業績は売上高、各利益とも過去最高を更新した。15日の決算会見で高山靖司社長は米国関税の影響について「現時点では中国のプレス部品とカナダのドア製品が対象となる。材料の鋼材は現地調達だが、間接的には価格上昇を想定する」と述べた上で「関税コスト分は値上げで吸収する」と示した。「米国では昨年、製品価格が値下がりしたが、今期は値戻しと値上げでおよそ50億円を上積みする。既に3月から5%以上の値上げを実施した」と述べ「シェア拡大による数量増も進めて、今期は現地通貨ベースで増収増益、営業利益率17・3%を達成したい」と強調した。

大塚製薬グループ　熱中症対策の自動販売機
鉄鋼・非鉄金属業界、業種・地域の垣根を越えて採用広がる

大塚製薬グループの大塚ウエルネスベンディング（本社・東京都千代田区）が展開する、熱中症対策の自動販売機を採用する動きが、業種や地域の垣根を越えて広がっている。各事業所の安全・総務担当に提案を始めて10年目に入る中、暑さの度合いは深刻さを増すばかり。働き方改革をめぐる対応も急務な今、持続可能な職場環境の実現に有効な手段の一つとして鉄鋼・非鉄金属業界でも多くの実績を上げている。

飲料の管理者と利用者、互いにメリット

熱中症とフードロス、事務作業で三つの「ゼロ」の具体化に活路見いだす＝日鉄物流九州支店

大塚ウエルネスベンディングが提供するサービスでは、熱中症対策飲料の管理者と利用者がメリットを享受し合える。自動販売機の管理会社が製品の補充と空き容器の回収を担うため、飲料の「発注・配布の手間」と「在庫の管理・負担」が不要になり、衛生的かつ手軽に冷たい水分を補給できる。製品群は経口補水液「OS―1」を含め10種類を超え、事前のアンケートに基づいて自動販売機に搭載する飲料の種類や容量を決められる。

2016年から一連の自動販売機を展開する中、大塚ウエルネスベンディングは展示会の参画や講習会の開催を通じて、暑熱環境下で働く従業員をサポートする部署や担当者から理解と支持を得てきた。ものづくりの現場で設置が相次ぐのをはじめ、総合建設会社（ゼネコン）や高速道路の管理・運営会社といった屋外が活動主体の分野に広がり、鉄鋼・非鉄金属業界でもメーカーの操業を支える事業所で普及が進む。先行して社内の他組織が取り組むのを受けて導入を決めるケースも少なくない。

日鉄物流では、東日本支店（君津地区）において、従業員に所定の水筒を手渡していたこれまでの運用を見直し、17年度から段階的に熱中症対策自動販売機の導入を拡大。昨年度からは九州支店で試験的に9台の運用が始まった。自動販売機がある部署では専用のコインを投じて好みの飲料を取り出す光景が日常の一コマとして定着している。

九州支店の福田準一安全環境防災部長は、前任地の君津でこれら自動販売機の存在を知り、その高い有効性を間近に体感。待ったなしで迫る諸課題の解決を図っていくのに際し、大塚ウエルネスベンディングとの連携に白羽の矢を立てた。今年も記録的な猛暑が見込まれる中、福田部長は「現場の第一線で働くみなさんが『熱中症に罹患（りかん）しない』という意識の定着につながれば」と意義を語る。

九州支店は今年度、管内の熱中症対策自動販売機を倍に増やす方向で計画している。上原基樹部長代理は「（管理者、利用者それぞれから）歓迎する声を多くいただけた」と振り返り、「今後も現場と一体になって、より安全で、働きやすい環境の在り方を考えていきます」と力を込める。

6月からは罰則付きで熱中症の対策が義務化される。これまでの「努力義務」からより厳格な改正省令の下、厚生労働省では異常の早期発見と重症化防止の徹底を促す。ますます安全確保の重要性が高まる一方、各事業所ではどのような措置を講じていくのか。熱中症とフードロス、事務作業において、大塚ウエルネスベンディングの自動販売機が三つの「ゼロ」の具体化に活路を見いだす。

問い合わせはこちらから

PURPOSE
企業の未来を支えていく。
日本を変化につよくする。
商工中金
押上支店 浦安出張所
〒279-0025 浦安市鉄鋼通り2-1-6
TEL:047(355)8011
https://www.shokochukin.co.jp/

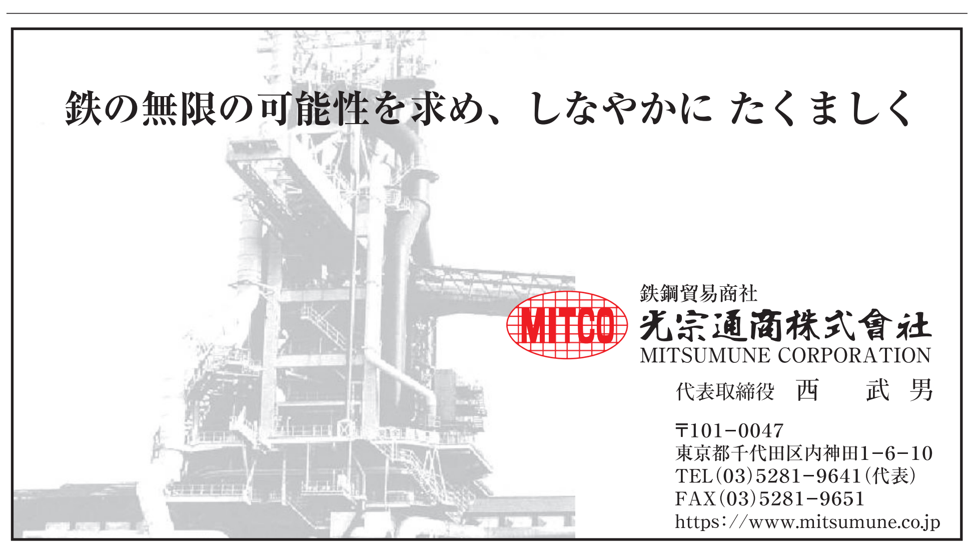
FALCON
感謝の心を忘れずに、ベストパートナーとして
真のニーズに応える商品・サービスを提供します
株式会 FALCON
代表取締役社長　佐藤　義晴
〒334-0074　埼玉県川口市江戸1-16-15
TEL 048(285)5541　FAX 048(285)5542
URL : https://www. falcon-mp.co.jp

目指せ100年企業へ！
座間工場リニューアル紹介動画公開中！
一般鋼材・ステンレス材・在庫販売・溶断工場
FK 藤原鋼材株式会社

祝 創立70周年 おめでとうございます

金属加工技術でものづくりと社会を支える
株式会社 ニホンケミカル
代表取締役社長 石田 雅裕
代表取締役専務 原田 敦夫
本社：広島県三原市本郷町南方 8827-1
URL：www.nihonchemical.co.jp
TEL：(0848)86-6363　FAX：(0848)86-6714

祝 東京鉄鋼販売業連合会 創立70周年


鉄の無限の可能性を求め、しなやかに たくましく
鉄鋼貿易商社
MITCO 光宗通商株式會社
MITSUMUNE CORPORATION
代表取締役　西　武男
〒101-0047
東京都千代田区内神田1-6-10
TEL(03)5281-9641(代表)
FAX(03)5281-9651
https://www.mitsumune.co.jp